

# 核はこうすれば無くせる

伊藤 眞作

プーチンの「核を使うゾ……」

このごろでは

「サリンを使うゾ……」

と言って始めた

ウクライナ侵略戦争！

核戦争を 止められるのか？

誰しも そう考えてしまう

TVでは

ウクライナを破壊するための

ロシアの戦車が つづく

バイデン

NATO

岸田も

連日TVに映る

………

ウクライナの死者は

今日は ○百人

明日も つづくだろう

核はどうなる

核戦争は止められないのか

結論的に言おう

ヨク キイテクレ

ひとりで、

放任したまゝ まかせ切っては

核は なくせないのだ

何故だ？

戦争こそ

手取り早く、モウケられるからだ。  
領土をブン取ドレバ更ニモウカル。

何年も続くコロナ、

世界をおおう大不況下

オリンピッククなのに

プーチンは

「核でおどして」

ここから自分だけ抜け出そうとした。

ウクライナに

爆弾ヲ落トシテ

バクハツさせ

一発、不足した爆弾を

すぐ、注文する

政府は、兵器を緊急に作らせる。税金で

兵器がまた出来

兵器会社は確実に、モウカッタのだ。

貿易の商談も出来ず、部品の生産すら絶え

貿易もまゝならぬ、あてもないコロナ不況下、  
兵器会社に投資しさえすれば

「着実な利潤を稼げる」と

財閥・銀行などの死の商人らの

計算が実現した。

日本を振り返ればわかる

大東亜戦争で

ひと稼ぎも、ふた稼ぎもした

死の商人を、いろいろ知っている。

彼らにとっては

兵器を、生産しただけでは利益が出ない。

実際に使ってくれないと

利益が出ない

プーチンが、兵器を、ジャンジャン使い

北朝鮮が、ミサイルを、やり続けるのも

死の商人の、根源的欲求なのだ。

それらの兵器の頂点に位するのが

「核」なのだ。

核でおどせば

ウクライナを始め

ソ連「社会主義」の崩壊などで失った

諸国を取り戻せ

旧大露西亜帝国を 再現出来ると

核でおどし

ウクライナからオツ始めた。

そして一ヶ月

プーチンは誤算の連続に突入。

誤算の第一は

世界の七割の国々が

プーチンを糾弾、始めてだ。

あわてて 言論弾圧法を作ったが

そのため マスコミ人などの背反

国外脱出も相次ぐ。

あの

バイデンですら

「戦争犯罪人」

呼ばわり 始めた。

しかし

これらを過信するな。

「核廃絶条約」に反対し

「核のカサ」を妄信してやまぬ点では

プーチンも

バイデンも

トランプも

NATOも

中国も

北朝鮮も

同じ穴のムジナに過ぎない。

だから ひとりでは、

核戦争はなくならないのだ。

そのためには もう一つ  
唯一 被爆体験を持つ  
「非核の日本政府」の力が  
不可欠なのだ。

では  
キシダはどっちなんだ  
ウクライナ派か  
それとも  
ロシア派なのか

「プーチンと一緒に  
27回一緒にメシを食ったことがある」  
と自慢してやまない男  
北方領土を 二島にされ  
おまけに  
シベリア開発援助金を  
毎年 送り始めた  
自民党の男。

この  
プーチンにも  
トランプにも  
バイデンにも  
習近平にも  
北朝鮮にも  
ナメラレつくした男  
その名を  
「アベ シンゾー」

だから 子供の  
キシダは  
当然のごとく  
プーチンへ  
21億円 送った。  
TVなどマスコミは これをヒタ隠しに  
「予算が通った」とダケ書き立て  
いつせいに黙殺した。

TVなどマスコミは 代りに  
「ウクライナへ 一億円出した」  
と付け加える事を 忘れない。

21億円と一億円とでドツチが多い

小学生さえ判る大ボラを

毎日平然とタレ流す

TVなどマスコミは

勿論 プーチン派だ

キシダがプーチン派だという事実を隠し

キシダがハト派に見せるのに一役買った。

だから

ひとりでは

核戦争はなくなるらないのだ。

この大切な日本に

TVなどマスコミがノサバツテいては

核戦争をなくすには

まず

核をなくせばいい。

それは トテモ

簡単だ。

世界中の

全ての核兵器の

先端に チョビっと

必ずくつついている

核起爆装置

これを 同時に外せば終りだ。

それをまとめると爆発するので

爆発しないよう管理すればよい。

そして

誰でも いつでも 査察可能にする。

国連には

憲法九条がない。

だから

「非核の日本政府」の代表を送り込み

憲法九条の尊さと

ヒロシマ・ナガサキの悲惨さを

国連に持ち込むことが

切望されているのだ

これをやり抜くことが出来るのは

世界ひろしといえども

日本の責務だ

ウクライナの為にも

世界平和の為にも

「非核の日本政府」を樹立し

国連に 大きな契機を作り出し

世界を 一気に変えようではないか。

(2022・4・5)